

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 吉見 泰治

コロナ禍のせいで、学生の皆さんにとって大学に来て皆で一緒に学ぶという当たり前の行動もできなくなってしまいました。大変だったと思います。私の主な担当授業は、2年生後期の有機化学 III と 2年生後期および3年生前期の数回の学生実験です。昨年度、私の担当部分の2年生後期学生実験はオンラインでしか実施できず、3年生前期学生実験は対面式で1回実施、今年度の3年生前期学生実験でも対面式の回数を減らさないといけませんでした。化学系の学科にとっては学生実験こそが一番重要な授業なので、忸怩たる思いでした。しかし、このコロナ禍において回数は少ないですが、感染対策をして対面での学生実験ができ、感染拡大などの問題もなく終えることができました。また、有機化学 III の授業もオンラインと対面を併用して行いました。昨年度、10月の授業開始の時、学籍番号によって2つのグループを作り、交互に対面の授業に来てもらいました。このように、なるべく対面でと思っていたのですが、オンラインでの授業動画があり、出席を取らなければ対面授業に来る学生数は非常に少なくなっていきました（どちらに対してもレポート提出は必要でしたが）。結局、4回目ぐらいの授業からは、学籍番号に関係なくどの学生でも対面に来てもいいよと言いましたが、徐々に出席人数が少なくなっていきました。1月の最終の授業では10名もいなかったと思います。それでも、テストが良ければ問題なかったのですが、やはり対面に来ている人数が少ないために、点数の高い学生と低い学生の極端な結果になりました。オンライン上でも意欲のある学生は勝手に勉強を進めて成績を伸ばすのに対して、意欲の低い学生はやはり対面の授業に無理やり来て授業を聞き、テスト前などには同級生と一緒に勉強や話し合いをする必要性を感じました。しかし、このオンラインと対面の両方を授業で利用するメリットも感じました。意欲のある学生からは、対面の授業に来て、オンラインの動画を予

習と復習に利用していると聞きました。ここでやはり問題なのは意欲の低い学生に、どうやってこれらを利用してもらうかということです。これから、この期間に作った動画などを利用して、幅広い学生たちが興味を持ち、理解できる授業を行っていきたいです。